



第22回上田八木・金融政策サーベイ(2018年9月)の結果について

～回答者の99%が今回のMPMでの政策変更なしとの見方、金利予想の見通しについては、前回から強まった長期金利の上昇傾向が概ね維持された。

2018年9月14日(金)
上田八木短資株式会社

【調査の総括】

- 回答者(176先)の99%が今回のMPMでの政策変更なしとの見方。
- 前回の調査とは対照的に、「引締」の予想は大幅に減少。(前回5%→今回0%)
- 「10年利付国債金利」の予想については、「不変」との見方が再び増加。(前回56%→今回65%)

【調査の概要】

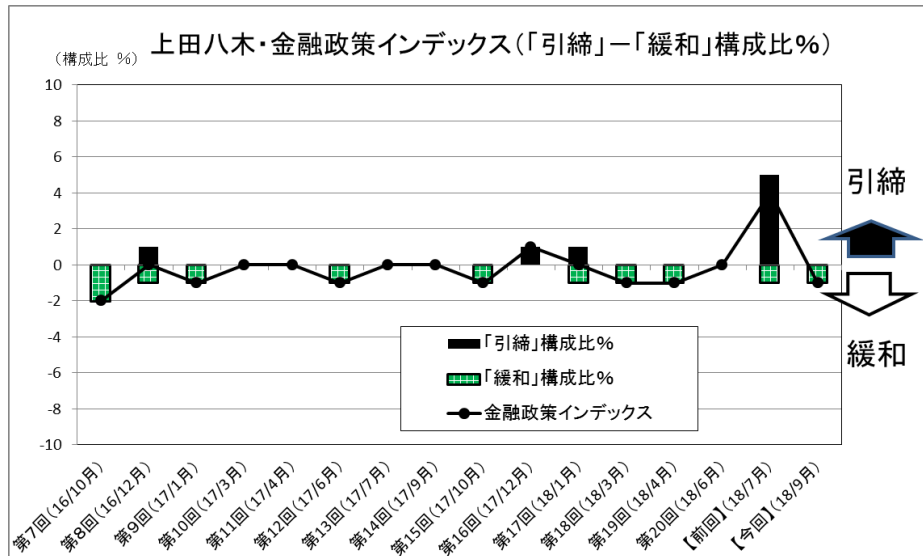
調査方法	弊社と取引のある銀行、証券会社、保険会社、事業法人などの市場取引関係者(193先)
調査方法	日本銀行の金融政策決定会合における結果予想と、3か月先の金利見通し
調査方法	2018年9月11日～13日の3営業日間、電話等によるヒアリングにより実施
回答率	91.1% (回答者数176先<Q1における回答者数>)

【調査結果】

(Q1) 日本銀行の次回の金融政策決定会合(9月18日～9月19日)における決定について

回答者の99%が「不変」の見方。
前回は「引締」の見方がやや増えていたが、今回は前々回に戻り、「不変」の見方が支配的となっている。

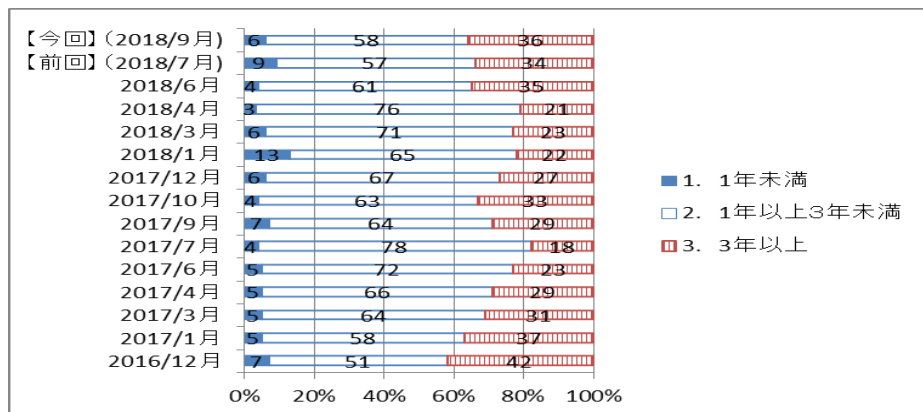
上田八木・金融政策インデックス(「引締」-「緩和」構成比%)は、「▲1」(前回は4)だった。



(ご参考)

【今回15回目となる追加質問:Q5】現状の金融緩和(オーバーシュートコミットメント含む)からの出口開始時期は？

1年未満と回答する先が6%に減少(前回9%)、1年以上3年未満と回答する先は58%に(前回57%)に増加。

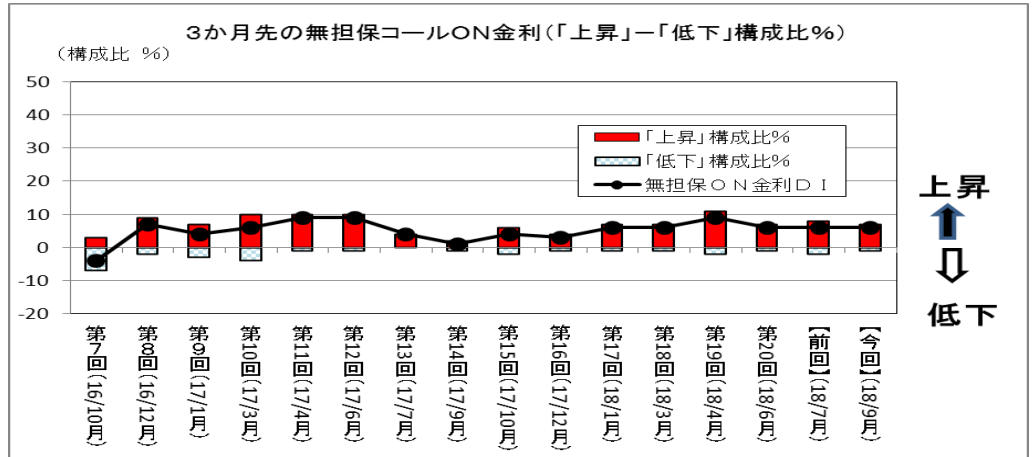


(Q2) 3か月先の無担保コールON金利は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の92%が「不変」と予想。1%が「低下」を予想、「上昇」とみている先は7%だった。

前回との比較では、「上昇」とみる先は▲1%ポイント(前回8%→今回7%)。「低下」とみる先も▲1%ポイント(前回2%→今回1%)。

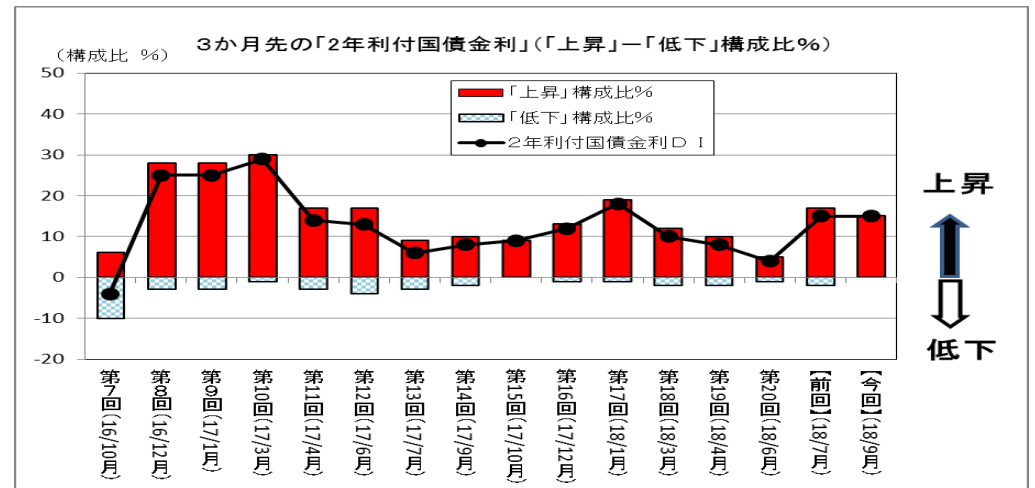
「不変」とみる先は+2%ポイント(前回90%→今回92%)。



(Q3) 3か月先の「2年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の85%が「不変」を予想。「低下」を予想する回答者0%。「上昇」を予想した先は15%であった。

前回との比較では、「上昇」とみる先は▲2%ポイント(前回17%→今回15%)。「低下」とみる先は▲2%ポイント(前回2%→今回0%)。「不変」とみる先は+4%ポイント(前回81%→今回85%)。



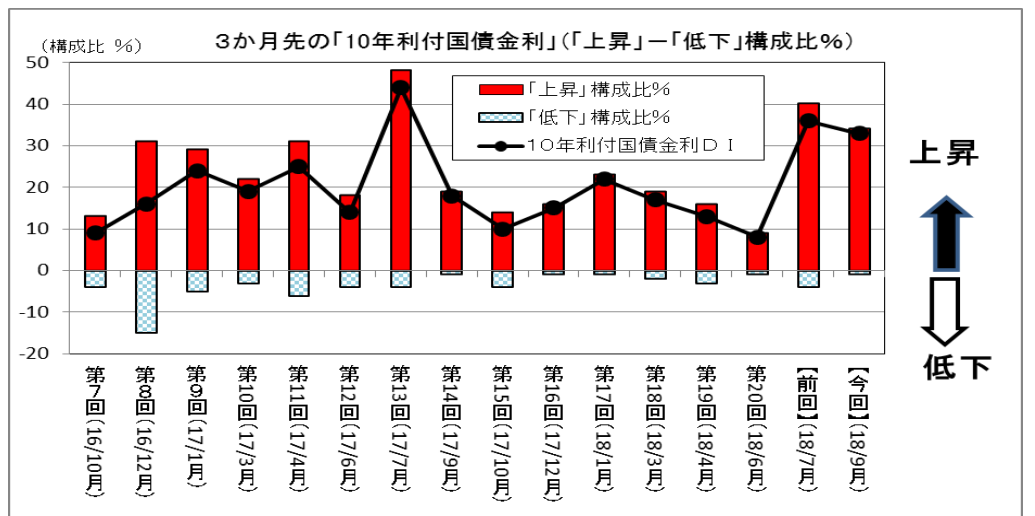
(Q4) 3か月先の「10年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の65%が「不変」を予想。1%が「低下」、「上昇」を予想した先は34%。

前回は金利上昇の見方が増加したが、今回も概ねその見方が続いている。

前回との比較では、「上昇」とみる先は▲6%ポイント(前回40%→今回34%)。「低下」とみる先は▲3%ポイント(前回4%→今回1%)。

「不変」とみる先は+9%ポイント(前回56%→今回65%)。



【本調査に関する照会先】
企画部 島本、保元 (電話 03-3272-0293)



第22回上田八木・金融政策サーベイ(2018年9月)

発表日：2018年9月14日（金）14：00 上田八木短資株式会社

調査日	2018年9月11～13日
調査先	193先
回答率	91.1%

(Q1) 日本銀行の次回の金融政策決定会合（9月18日～9月19日）における決定内容について、どのような結果になるとみているのか。

	(今回)	(前回7月27日)	変化幅
緩和	1 (構成比%)	1	+0
不変	99	94	+5
引締	0	5	▲5
上田八木・金融政策インデックス (「引締め」-「緩和」構成比%)	▲1	4	▲5

(Q2) 3か月先の無担保コールON金利は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

	(今回)	(前回7月27日)	変化幅
低下	1	2	▲1
不変	92	90	+2
上昇	7	8	▲1
短期金利予想DI	+6	+6	+0

(Q3) 3か月先の「2年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

	(今回)	(前回7月27日)	変化幅
低下	0	2	▲2
不変	85	81	+4
上昇	15	17	▲2
2年国債金利予想DI	+15	+15	+0

(Q4) 3か月先の「10年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

	(今回)	(前回7月27日)	変化幅
低下	1	4	▲3
不変	65	56	+9
上昇	34	40	▲6
10年国債金利予想DI	+33	+36	▲3

質問(Q5) 現状の金融緩和（オーバーシュートコミットメント）からの出口開始時期はいつ頃か。

(ここでの「出口開始時期」はオーバーシュートコミットメントを考慮したもので、例えば消費者物価が4月に目標にワンタッチした後に6か月後にその時期が来ると予想すると「出口開始」は10月という意味です。資産買入れの残高が減っても物価目標を達成していなければ「出口開始」とはみなしません)

	(今回)	(前回7月27日)	変化幅
1. 1年未満	6%	9%	▲3%
2. 1年以上3年未満	58%	57%	+1%
3. 3年以上	36%	34%	+2%